

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3470104401		
法人名	テルウェル西日本株式会社		
事業所名	NTTグループケアポート広島認知症対応型共同生活介護		
所在地 (電話番号)	〒732-0816 広島市南区比治山本町11-1 (電話)082-250-1280		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒734-0007 広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成20年8月6日	評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 17,1 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000円	有りの場合 償却の有無	無 (退所時返金)
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1500円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内医院・熊野内科小児科往診クリニック・小島歯科・宮本形成外科 他
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

NTTグループケアポート広島は、国道2号線より、一步入った商業地と住宅地が混在した場所にあるが、グループホーム前は比治山の緑の木々がいっぱい敷地内のガレージは広々としており、利用者は敷地内にある畑や花壇で野菜や花等を栽培したり、散歩を職員と共にしながら、日々の生活を楽しまれている姿が伺えた。また、評価訪問当日の午後は、二人の利用者が手をつなぎながら仲良く他のユニット利用者を訪ね、会話されている情景は微笑ましく、日々を管理者や職員が利用者主体のサービスを絶え間なくサポートしている努力の結果だと感じた。また、特に管理者と職員は一体となり信頼関係を築き、情報を常に共有し運営されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題は特にない。管理者・職員は理念を共有し、日々のケアの向上に努め、新たな目標を掲げながら更なるサービスの質の向上に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価に取り組みながら、その結果を踏まえて今日より明日はもっと「サービス品質向上」に繋がるように事業所全体で利用者満足度アップを図っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は定期的に行なわれている。会議はホームの利用状況・交流や行事の実施状況に留まらず、苦情・事故の状況なども取り入れた意見交換が行われており、地域のアイデア等も取り入れ運営に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームの運営については、毎月沢山のスナップ写真を掲載した「ケアポート広島通信」を発行し家族に報告されている。また、家族からの様々な相談事や介護のあり方など問題点があればその都度対応し、更に管理者・職員間でしっかり討議し、サービスの質の向上を目指した取り組みが成されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的には近隣の公園に出掛けるなどして気軽に挨拶を行っており、町内での行事などは常に参加しながら密な交流を行っている。また、近くの幼稚園、学校やボランティアの方々とも交流を深めており、中学校の体験学習も受け入れる等積極的に連携をとっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「支えあい共に創る生活」を基本理念に掲げ、地域との関係を大切に安心して信頼されるホームを理念とし、管理者、職員は介護サービスに活かす努力が行われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念とケアを照らし合わせた介護サービスを基本方針として、管理者と職員はミーティング時に唱和する等して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の公園に天候等を勘案しながら、出来るだけ入居者と職員が共に散歩等に出かけて地域の人達と挨拶をかわして、顔馴染みの関係づくりや触れ合いが出来るように努めている。また、近隣の幼稚園の園児やボランティアの方達との交流や地域の盆踊り等に参加しながら交流の輪を広げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を管理者と職員間でしっかり共有されており、自己評価や外部評価の結果を検討し、全職員で話し合い改善すべき点は改善するよう取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に行われており地域に溶け込んだホームとしての位置付けが確保されている。また、いただいた意見はサービスの向上に活かす姿勢が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症アドバイザーの資格をもった管理者が、市や地域包括支援センターとの連携を密にしながら地域貢献に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりのケアの取り組みや健康状態については、ご家族が訪問された機会を捉えてきめ細かく報告しており、他にホーム便りで日常の暮らし振りなどを報告している。また、毎月の金銭管理については、母体事業所の担当部署と連携して定期的に更なる管理体制を図りながら、報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族の意見・苦情等を聞く体制は出来ている。また、職員が積極的に話しを聞く機会をつくる等して、会議で意見交換しながらサービスの向上に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットのスタッフは出来るだけ固定するようしており、それぞれのユニットで不安のない生活をしてもらえるよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員と現任社員は、法人内外の研修を受講出来る様に機会は設けられており、職員は研修の意義・目的をしっかりと持ち取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は設けられている。交流会では、情報交換や会議を通してサービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者個々の生活歴や個性を把握し、職員は自然体でケア出来るよう努めながら場の雰囲気に安心して馴染めるような工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の手伝い・洗濯物をたたんだり掲示板に食事メニューの書き込み等身近な仕事を職員と共にし、また、菜園の手入れや収穫も手伝ってもらい季節や収穫の喜びを共有する関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で、利用者の希望や意向に添ったケアを心掛けており、毎月のカンファレンスの中で本人のケアにとって何が最良かスタッフ間で意見交換して、ケアプランを作成している。またご、家族の方に同席してもらう事もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の意見を反映したカンファレンスを行い、介護計画を作成し職員間で情報を共有しながら日々の支援の目標としている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランごとに計画期間を設け介護計画を見直し、計画に当っては家族の意見も参考に現状に沿った計画を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族のその時々要望に応じて、個々の希望に沿ってサービスの変更を柔軟に行っている。例えば、状況によっては施設内のサービスのレクリエーションに参加するなど事業所の多機能性を活かして、柔軟に生活の広がりを支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族と話し合い適切に医療を受けられる支援が行われており、気軽に相談できる体制も出来ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の意向に沿ってホームとしてどこまでの支援が出来るかなどを、相談しながら方針を共有しているが、終末期のありかたについては、医療連携体制の充実を図るように検討課題とされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保の徹底は、ケアポート広島の柱の一つで経営母体である法人としての最大の取り組み事項であり、職員は常に意識をもっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく利用者のペースに合わせ、一人ひとりの心に寄り添った生活を考え行動するよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節感のある献立や、一人ひとりの状況や好みにも配慮している。調理を利用者と職員が共に行ったり、職員と共に食事を一緒に楽しみながら雰囲気づくりを大切にしている。また、職員は入居者のペースにあわせて、さりげなく食事介助や見守りも行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や意向に沿って柔軟に対応しており、勧めてもなかなか入浴されない方にはタイミングがあえば夜でも入浴してもらえる支援がされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的な家事作業や菜園での野菜の栽培や収穫を行い、花見や菊花展など四季折々の季節を感じること出来る取り組みや誕生会、ボランティア等による歌・踊り・演奏などで、生活に潤いをもたられる取り組みも行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に出掛けたり、ホームの敷地内にある花壇や畑に行くなど、戸外の空気に触れるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は鍵をかける事の弊害を理解している。当ホームは玄関・ユニット入口・居室など鍵をかけないケアに努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はしっかり行われている。管理者と職員は、日頃より地域との関係作りや協力が得られるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの体調や状態に応じて食事の内容も替えており、水分には特に注意して摂取支援し状況に対応できるよう体制が出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者のコミュニケーションが良くとれており、季節感を失わないよう花や壁掛けなど共用の空間が安らぎの場となるよう工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して寝具・家具等の馴染みの品を配置するなどして、本人が居心地よく過ごせる工夫が伺える。また、リビングのテーブルやイスの高さなど細かな配慮が伺える。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 NTT グループケアポート広島 認知症対応型共同生活介護事業所

評価年月日 20 年 7 月 1 日

記入年月日 20 年 7 月 15 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 グループホーム管理者 氏名 西田 美和子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	利用者の皆さんと施設の理念「支えあい共に創る生活」の実現に向け、地域との関係を大事にしている。		家族、地域、スタッフとの連携・触れあいといった視点で取り組んでいく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念については日常的な活動の中で自然に共通のものとなるよう努めている。		ミーティングに唱和をし理念の確認をしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域との交流や触れ合いを大切にして、潤いと温みのあるホームをめざしている。取り組みの状況は「ケアポートホームだより」により毎月、ご家族にも報告している。		これからも、取り組みや行事の内容をホームだよりでお知らせしていく。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	近くに公園があって多くのお年寄りや地域の人々が利用しておられ、日々の散歩等を通じて地域の皆さんとの触れあいができるよう努めている。		あいさつや声かけを通じて触れ合いを深めていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の家族、子供たち、ボランティアグループとの交流を通じてケアポート広島と地域とのつながりがより深まるよう取り組んでいる。園児との触れ合いや盆踊り等地域行事へ参加している。		地域の学校、保育園、ボランティアグループなど地域との交流を深めているが、今後この取り組みを継続していく。 なお、中学校の体験学習の受け入れも行っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域における認知症研修会に管理者が認知症アドバイザーとして出席しており、地域との関係を大切にしている。		広島市南区の高齢者の食を考える会の取り組みにも管理者が参加しており、施設として可能な限り、地域への貢献に努めていく
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今日より明日はもっと「サービス品質向上」という気持ちで評価を活かしていくとともに、利用者満足度アップをめざしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	おおむね2か月に1回運営推進会議を開催しており、評価結果や取り組み状況について報告している。意見交換のなかで、いただいた意見は取り組みに活かす努力を行っている。		民生委員、地域包括やご家族との意見交換を通じてレベルアップを図っていくこととしている。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	認知症アドバイザー資格をもった管理者が市や、地域包括支援センターとの連携を密にして、地域貢献に取り組んでいる。		管理者が認知症研修の講師として、また、高齢者の食を考える会のメンバーとして参加している。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	主旨について理解に努め、すでに活用の実績もある。		スタッフ全体のレベルアップのため、幅広く理解が深まるよう、勉強会等を含めて取り組んでいく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の取り組みや、研修にスタッフを参加させて虐待防止の意義を理解していくとともに日々の言動にもお互いに注意をはらっている。		ホームの重要な取り組み施策の一つとして今後も継続して取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容、重要事項の説明のみならず、日々の生活、将来的な対応やご家族の意向をお聞きして、ケアの方向づけを一緒に考えていくようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>利用者の皆様からの要望や意見は、日々のケアの中で活かしていくこととしており、ご家族の皆さまとも意見交換を行っている。また、外部の苦情受付機関は重要事項の中で説明。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>個々の利用者のケアや健康状態等については、ご家族が来所されたおりに報告させていただくとともに、ホームだよりで全体の生活状況について報告させてもらっている。また、利用者の皆さまから個別の消耗品等購入のために預かっている「預かり金」については、更に管理の徹底のため、全社的に管理方式を変更した。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族の来所時にご利用者の状況説明やご家族からの意見をいただくようにしている。苦情等における外部機関については重要事項説明書で説明することとしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の申し送り時や毎月のミーティングの中で意見交換を行っており、提案や意見は運営の参考にしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>24時間体制の中でスタッフを配置して、見守りの空白がないようにしている。利用者の皆さまの状況の変化があれば、状況にそった対応をこころがけている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	1ユニットと2ユニットのスタッフはできるだけ固定にしておき、それぞれのユニットで不安なく生活していただけるよう取り組んでいる。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフのレベルの向上は大事な事項であり、部内外の研修にできるだけ参加することとしている。		スタッフのレベル向上のための研修機会の確保。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業者交流には積極的に参加していくこととしており、活動を通じて同業者間のネットワークづくりとサービスの品質向上に努めている。		事業者交流会のメンバーとなっている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	花見や焼肉パーティー、あるいは会社のボーリング大会などスタッフの交流の場をもうけて、職場環境づくりに努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	介護福祉士の有資格者には資格手当制度ができるなど、レベルアップを図っていく環境づくりも大切にしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	安心して安定した暮らしをしていただくために、利用者本人の要望やご家族の意見も参考にケアプランをたてることとしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居されるに当たっては利用者の状況やご家族の要望をお聞きして、個別ケアに努めるとともに、電話やご家族が来所されたおりに状況を説明し、意見交換を行っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の皆さまと意見交換をしながら、ご利用者一人一人の状況と必要に応じたケアを行うよう努めていくこととしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者の皆さんの個々の特性を把握して自然にケアができるように努めており、スタッフは1ユニット、2ユニットできるだけ固定して、顔なじみとなり、安心して生活いただけるよう取り組んでいる。利用にあたっては、事前に他の利用者の皆さまと一緒に茶をのんで顔みしりになり、本人が安心して納得のうえ、入居していただいたケースもある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理のお手伝いや、洗濯物をたたんでもらったり、毎日の食事メニューを掲示板に書いてもらったりして、ともに生活してく取り組みを行っている。畑の手入れや収穫も手伝ってもらい季節や収穫の喜びを共有している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の支援、スタッフの役割、また、ご家族と一体となった支援など、ご家族の皆さまとも意見交換をしながら、協力しあって生活を支えていくこととしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族の力と支えはとても大きく、本人と家族とのより良い関係が更に高まっていくようサポートしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、ご親戚、知人、友人の方が気軽に来所いただける施設を目標にして取り組んでいる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	誕生会やレクリエーション、日々の食事や生活の中で、利用者の皆さんのお互いの心の交流ができるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了した利用者の皆さまと継続した関わりが十分なものにはなっていないが、機会をとらえては、その後の状況をおたずねするなど、つながりを大切にするよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月のカンファレンスの中で、本人のケアにとって、何が最良であるかスタッフ間で意見交換してケアプランを作成している。なお、ご家族の方に同席してもらうこともある。		ご自分の意志を表されることのできる方にはカンファに同席してもらい、本人のご希望をお聞きすることもある。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴の把握が一人一人のケアに欠かせない重要事項となっており、大切なスタッフ共有の情報として認識している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎月のカンファレンスの中で一人ひとりの状態をスタッフ間で確認して、ケアプランを作成しており、加えて、日々の状況の情報交換を行って、その時の状況にあったケアに努めている。		一人ひとりの個別の状況にあったケアに心がけていくため、スタッフ間の情報交換を大切にしている。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の皆さまが安心して、安全に快適に生活していただくためのプランをスタッフ間で意見交換しており、プランの実行に当たってはご家族の意見やご希望も参考にしている。		利用者本人、ご家族の希望をケアプランに取り入れている。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランは6か月を単位としているが、毎月、利用者の皆さまの状況をみながらプランを評価している。計画にあたっては、ご家族の皆さまの意見も参考にしている。なお、入院等があれば、退院1か月後に見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日報に利用者個別の様子や気づき、ケア状況を記録しており、常にスタッフ間で情報の共有に努め、介護の実践の中で活かしている。		ご家族にも利用者ご本人の個別記録を見てもらっている。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	統一的でなく、個々の要望に沿ってメニューを変えることも必要。状況によっては、当施設内のデイサービスのレクリエーションに参加するなど、施設内の機能を活かして、生活の広がり支援を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、地域の中学校、地域包括支援センターやボランティアサークル等との連携を通じて介護サービスの品質向上、生活の広がりにも努めている。		施設が孤立しないためにも、地域との交流を大切にしていきたいこととしている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ケアポート広島の中にデイサービスがあり、連携をとりながらサービスの充実に努めている。また、ご家族のご希望によっては、訪問看護など他事業所のサービス支援もアドバイスしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと広い意味でのケアマネジメントに対する意見交換は行っているが、利用者個々のケアプランは本人の状況や意向、ご家族の意見を参考としている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	施設としての提携医院もあるが、ご家族が、かかりつけ医を希望される場合は、意向を尊重し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携している医院の先生に毎週診察してもらいまた、相談しながら対応している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が1名いて、アドバイスはもらうが、看護職との協働という状況にはない。		医療連携充実の方向づけの一環として今後の検討課題。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者の入院にあたってはご家族の意向や提携医、並びに入院先の先生とも退院後のケアを含めて最善の方策の相談や指導をいただいている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化した場合等の対応については提携医並びにかかりつけ医、ご家族とも相談しながら方針を定めている。		終末期のありかたについては、医療連携体制の充実ということで、これからの検討課題としていく。
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療体制や設備のない当施設として、何がどこまでできるかということを中心にご家族や提携医、かかりつけ医、ケアマネージャーと相談しながら最善の方策をたてている。		同上の関連として何が必要で何ができるか、その方法等、これからの課題と実施方法について検討。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	環境が変わることのダメージを想定してご家族、ケアマネージャー等関係者と相談しながら対応している。 入居に当たっては、利用者の方が使い親しんでいる道具類、衣類を持参していただくようアドバイスしている。また、スタッフの担当を決めている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを守り、人としての尊厳を大切にしていくことはケアポート広島の一柱の一つ。利用者個人情報の保護は会社としての最大の取り組み事項としている。また、記録は鍵のかかるキャビネットに保管している。		人としての尊厳を大切に、プライバシー・個人情報保護の取り組みを最大の目標に努めていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者本人の意思を大切にという取り組みは尊厳と結びついており、利用者の皆さんの目線にたったケアの実施をめざしている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の皆さまにとってホームは個々の家庭であり、家庭にはそれぞれのリズムとペースがあるという認識で個別ケアに努めている。		就寝時間、起床時間、食事時間に時間が必要な方など、利用者の皆さまの生活ペースはそれぞれであり、個々のペースを大事にしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	気候や外出等生活の TP0 にあったおしゃれの支援を行っている。理美容は出張理美容店と契約して施設内でできる様にしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節が感じられる献立や、一人一人の状況、好みにも配慮している。調理は入居者の皆さんにも手伝ってもらっており、スタッフが一緒に見守りながら食事を摂るようにしている。		公園等で昼食をとったり、戸外でおやつを食べていただいたりもしている。 また、畑で採れる季節の野菜を献立に入れている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者本人の好みや嗜好を大切に、状況や状態を見ながら支援している。		たばこを嗜好される方にはスタッフが付き添って喫煙場所で楽しんでもらっている。 また、健康上問題のない方で、甘いものが好きな方は居室で管理してもらい、ご自身の好きな時に食べてもらっている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつの使用を少しでも減らしていく支援とともに、一人一人の排泄のパターンや状態を把握して、その人に沿った排泄支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	原則的には、2日に1回の入浴としているが、利用者一人一人の状況を見ながら入浴支援を行っている。		すすめてもなかなか入浴されない方には、タイミングがあれば、夜でも入浴してもらっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者一人一人の生活パターンやその時々状況に沿った支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	花見、菊花展、畑での野菜の収穫など四季折々の季節を感じることでできる取り組みや利用者の皆さまの誕生会あるいはボランティアグループによる歌・踊り・演奏など、生活の潤いがもたれる取り組みを行っている。		台所仕事、メニューを書いてもらう。洗濯のたたみ、イリコの頭もぎ、畑の水やりや収穫の手伝い等も生活の潤いのひとつとしている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持ちたいと希望される方には、持っていていただき、ショップでの買物支援も行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	施設内には畑があり、また施設のすぐ近くには公園があって、季節を膚に感じていただくとともに、日常的に外の風と空気に触れていただくよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	スーパーへの買い物、花見や菊花展、クリスマスシーズンの夜のイルミネーション見学など季節を感じてもらおう支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族等への電話を希望される場合は電話をかけることの支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や知人の方がいつでも気軽にお越しいただけるようにしており、お泊りを希望される時には宿泊もできるようゲストルームを準備している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の皆さまの安全上、やむを得ない場合の身体拘束マニュアルはあるが、拘束しないという方針に沿ってケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は常にオープンにしており、建物内の鍵かけについては利用者の皆さまの安全確保のうえで必要最小限のものにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の皆さまの安全確保のため、プライバシーに配慮しながら24時間見守りができる体制にしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	毎月始めを施設の安全点検日と定めて利用者の皆さまにとって危険はないか点検しているが、利用者の皆さまにとって生活の場という環境はこわさないようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの状態をスタッフ全員で認識して、事故防止のため意見交換をしている。また、食中毒防止等の取り組みや過去の事故事例等を参考に事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	不定期ではあるが、消防署の指導による救急時対応について勉強会を開催しているが、初期対応を含めて事故発生に備えた習得が必要。		救急時の応急手当や初期対応のレベル向上。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火訓練は施設内で毎年実施しているが、更にレベルを上げていく取り組みが必要であり、あわせ地域との連携もこれからの課題。		地域との連携、年2回の防火訓練の内容の充実とレベル向上。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居時に利用者の皆さまの緊急時の対応等、ご家族と意見交換している。リスクを避けるために生活の幅を縮めたり、制限するという方策はとっていない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の皆さま一人一人の体調についてはバイタルチェックや表情等の観察により状況把握に努めている。気づいた点は日報や毎日のミーティングあるいは、申し送りにより情報を共有している。異変があれば提携病院のドクターと相談している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の調整は外部の薬剤師に依頼している。一人一人の薬の内容等についてはスタッフ間で情報を共有して服薬支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	なるべく野菜を多くした食事にして便秘の予防に努めており、便秘が長く続く方には飲食物の工夫もしている。便秘薬の服用も便の状態をみて、量の調整を行っている。また、毎日、体を動かす取り組みも行っている。		毎日の排便チェック表の記入。必要な方は水分摂取量も生活状況表に記録している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後必ず口腔内の清潔保持のための支援をしており、入れ歯を清潔に保つため、週1回必ず入れ歯を消毒するなどの取り組みも行っている。		歯ブラシも週1回消毒している。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の体調や状態に応じて食事の内容も替えている。水分については特に注意して摂取支援している。		肉のダメな方は魚や卵、豆腐等に代替している。柔らかく煮たり、とろみをつけたり、切りかたも食べ易く工夫している。梅干やふりかけ等もご希望に沿うようにしている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日々、感染症予防を意識した取り組みを行っており、利用者の皆さまやスタッフの体調管理にも気をつけている。予防や対応については、ケアポート広島における感染予防マニュアルを基本としている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	管理栄養士による衛生指導と点検を実施しながら、安全へのレベル向上を図っている。		食中毒の多発時期に管理栄養士による衛生講習会の実施(年1回)と四半期ごとの衛生点検を実施する。
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関入り口には花や水槽を配備して安らぎの空間を作るとともに、建物の周囲に畑を作って親しみやすい環境の工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、居間には入居者の皆さまによる季節ごとの貼り絵の飾り付けがあり、共用の空間が安らぎの場となるよう工夫している。また、テレビのつけっぱなしはしないこととしている。		食事の時間はテレビを消し、BGM を流すようにしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の皆さまと一緒に過ごせる場所や離れて一人になれるソファ、横になれる畳の間など状態にあって過ごせるよう工夫している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の皆さまの居室内のカーテンやベッド、あるいはタンス等備品はなるべく利用者の皆さまが使い慣れたものを用意していただくようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気のためにこまめに窓を開閉して、自然の風を取り入れるにしている。		室内環境をクリーンに保持するため室内・共用スペース・厨房等のエアコンフィルター清掃を年5回、換気扇清掃、ガラス清掃、網戸の清掃を年1回実施している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は利用者の皆さまの生活の空間であるとともに、食事、談話、レクリエーション、機能訓練など多目的活動の場となっており、自立した生活を送っていただくための総合支援の場となっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の皆さまの個々の特性や状態を把握して自立した生活支援ができるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	1Fのベランダでの休憩やお茶会。花への水やり、畑における野菜の作付け・収穫。施設外の公園での散歩など施設内や周辺で楽しんでいたための取り組みや環境づくりに努めている。		